一心太助の天秤棒

～前の籠には責任を、後の籠には信頼を肩に担で走り歩く～

越谷市会議員　白川　ひでつぐ

シリーズ/NO　１５２号

Web サイト　Youtube　Twitter　Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期２１年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内６駅での朝の駅立ちは、通算４２００日を超えました。私の日々のツィッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTube の白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は２８７名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録

水道水への汚染物質 PFAS の検査と安全性を質疑

３月越谷・松伏水道議会が、開催されたこの日は、午前９時３０分から議会運営委員会に出席のため、駅立ちは中止した。

議運では令和７年度越谷・松伏水道企業団水道事業会計予算をはじめ５議案の取り扱いを協議したが、越谷市議会と違い当初予算案に対する委員会審査は行わず、本会議上だけでの審査、採決となっている。

予定された議事が終わった後、私から以下の提案をして了解された。それはこの議運が開かれている会議室の議員全員（８人）にこれまで毎回湯茶が一人一人に出されている事について、議場横の控室には湯茶セットがあり、各議員はセルフで対応している。そのためわざわざ職員（女性）の手を煩わせて湯茶の必要性はないので、今後廃止すべき、と。

午前１０時過ぎから本会場での水道企業長からの議案の提案の後、私が質疑にたった。

特に、右肩上がりの時代が終わり、水道事業は拡大、成長から安定の時代へと変化しており、水道水の質の確保が重要な課題である、との企業長の発言に関連して FAFS 問題を取り上げた。質疑の要旨は以下の通り。

PFAS は、泡消火剤以外にも、テフロン加工の調理器具や食品包装紙など、様々な製品に使用されてきた化学物質。一部の物質では、発がん性や免疫機能の低下など、人体に悪影響を及ぼす可能性が指摘され、米国の州では全面禁止となっている危険物資。

しかし日本の米軍基地では、航空機火災などに対応するために泡消火剤が使用されており、その中に PFAS が含まれており、横田基地や沖縄では、未公表の PFAS 漏出事故や土壌汚染による水道水への影響から反対運動も起きている。そのため厚生労働省は、水道水に含まれる PFAS の暫定目標値を設定している。

特に水道事業者には、この暫定目標値を超えた場合に水質改善措置を講じることが求められており、具体的な改善措置の方法としては、暫定目標値を超えた井戸の停止や水源の変更といった対策が過去に実施されて来た。

近年では水道法に改正の動きがあり、環境省は 2024 年 12 月 24 日に水道水に含まれる PFAS の暫定目標値から水道法上の水質基準へと引き上げる方針を発表し、現在１年に１回の検査体制から数か月に１回の検査に変更される方向とともに暫定値基準の見直しが求められている。　　　　　　（３月２６日・水曜日）

幟旗が強風で倒れそうになる中、駅頭は続く。５０００円のカンパも

今朝の駅立ちは、午前５時２０分からせんげん台駅西口でスタートしたが、猛烈な強風が駅前を吹き抜けていく中で、午前８時３０分過ぎまでの３時間余り市政レポートを配布した。

３月越谷市議会が３月１８日に閉会したのでその特集号の「一心太助幕政に物申す」(NO92)も配布した。今回もデザインに工夫を凝らして、（アメコミのヒーロウ風）市民の皆さんから２秒見て”捨てられない”市政レポートを作成。

（裏へ）

また報告すべき様々な事業等も決定されたが全く紙面が足りないことから、３分から５分間の動画でポイント事業の紹介も今回試みた。

電車の中でも QR コードをスマホで読み取って視聴出来る様に。その市政レポートの配布を続ける中、午前８時前に馴染みの女性から、これ少ないですがカンパです、と小さなのし袋を渡して頂いた。少し厚みのある物だったが、帰宅して封を切ってみたら１０００円札が５枚入っており、しかも一枚一枚綺麗に折りたたんだ札だった。大変心がこもった気持ちが伝わる朝の出来事だった。　（４月１５日・火曜日）

議員に求められる資質と現状の格差はどうしてなのか？駅前対話集会で

第５０回白川ひでつぐ駅前市民対話集会を新越谷駅東口広場で、午後６時から午後８時３０分過ぎまで開催した。

齋藤兵庫県知事や立花Ｎ国党党首に象徴されるような法に触れなければ（脱法行為）何をやってもいいという風潮が蔓延している。

この事は大きな問題ではあるが、市民が日常目にする地方議員の中もその体質が見え隠れしており、何故市民に最も身近な地方議員がこんな状況なのか、その原因と改善策はないのか、と市民がマイクを握り訴えた。

この日で５０回目の駅前市民対話集会は、これまで常にYouTubeでライブ配信しているので、白川ひでつぐ公式チャンネルで視聴出来る。

私から政党や会派にかかわりなく、議員の役割や責任の在り方は時代の変化と共に変わりつつある。右肩上がりの時代には人口が増え続け、税収や企業収益も増え続けており、議員は地元や業界、団体の利益実現に向け補助金や制度利用のため政府や自治体や首長との”パイプ役“であり、”市民の声を行政に届けます“との選挙スローガンにあふれていた。

しかし３０数年前から、すっかり社会や地域や家庭の実態は大きく変化した。まず何よりも人口が極端に減少していく、言葉として「少子高齢化社会」と喧伝されたがその劇的な変化への対応はずるずると引き延ばされて来た。

更に労働形態が大きく変化して、非正規雇用が全体の就労者の４割（その内７割は女性）を超えるまでになり、女性の雇用率も増え続けている。市民や団体の声を届けるだけでは、何も解決しない時代となっているが、議員も市民も長い間の習慣と価値観から抜け出す事が出来ず、旧来の判断基準を少しだけ改善する事を思考するか、ヒーロー登場に無原則に期待してしまう。

結果、経済的衰退や社会の安定性が棄損され、市民は現状の生活や将来への人生設計が、曇天の如く不安に覆いつくされてしまった。

まず、この様な劇的な変化を認識することからスタートして、①議会での議案や予算や事業に対する賛否の議決行為への判断基準を持つこと。②その判断結果や基準に対して徹底した説明責任を議会や市民（自分の支持者に留まらず）に負うこと。③まず議員一人から始めるが、必ずチーム編成（議員間の、または市民同士の）に尽力すること。（結果として日常活動が持続可能となり、選挙時にはこのチームで対応出来る様になる）④全ての言動や活動はパブリックのためにある、と常に検証されまた検証すること。これが私からの応答となった。

（４月２０日・土曜日）

性暴力、被害者も加害者もつくらない社会は、誰が担うのか？

「子どもの盗撮」～加害者にも被害者にもならないために～をテーマに西川口榎本クリニック主催の講演会に参加した。

講師には、永守すみれ氏（ネットパトロールボランティアひいらぎネット代表）。近年大きな社会問題となっている「盗撮」特にデジタル性暴力とこれに巻き込まれて行く子どもたちの実態と解決策を話された。

① デジタル性暴力は、いつ誰が被害者になるかわらない。
② 社会全体が「性暴力を許さない」姿勢を示す事。
③ 大人がスクラムを組んで子どもたちを守っていく事。
④ お子さんが通っている学校の部活のユニフォームの刷新や最寄り駅へのミラーの設置等身近なところから声を上げて行く事。更に、榎本副院長から新刊「夫が痴漢で逮捕されました」（斉藤章佳著）が紹介された。帯府のリードには以下の文章が。

「加害者の家族は幸せになっちゃいけない。僕は生きる事をあきらめ、死ぬ理由に勝る生きる理由がないのです」（４月２６日・土曜日）